

ホセアの九年におよびてアッスリヤの王ツムにサマリヤを取りイサエルをアッスリヤに擧げよきてこれをハラエドホルとセツ河の邊とメテアの邊々におきぬ 此事ありしハイサエルの子孫已をエシブトの地より導きのばりてエシブトの王バロの手を脱したるの神エホバに對て罪を犯し他の神々を敬ひエホバがイサエルの子孫の前より還らひたまひし異邦人の法度におゆるみ又イサエルの王等は假けし法度におゆるみたるに因てなり イサエルの子孫義からぬ事をもてその神エホバを拒みかくしその邑々に崇拝をたたり看守臺より城にいたるまで然り 彼等一切の高丘の上一切の青樹の下に偶像とアッラ像を立て エホバがかれらの前より移したまひし異邦人のなせしごとくにしての崇拝に香を焚き又惡を行ひてエホバを怒らせたり エホバがかれらに汝等これらに汝等を爲べからずと言ふきたまひしに彼等偶像に事ふることを爲しなり エホバ諸の預言者諸は先見者によりてイサエルとエホバに見證をたて汝等觀へりて汝らの惡き道を斷れわが法度をなせり我が汝等の先祖等に命じたわが僕なる預言者等によりて汝等に傳へし法に奉由ふやうにせよと言たまへり 然るに彼ら聽てをせずしてその頂を強り彼らの先祖等がその神エホバを信せずしてその頂を強く言たるが如し 彼等ハエホバの法度を棄てエホバがその先祖等と結びたまひし契約を棄てたまはるの彼等に見證たまひし證言を棄て且虚妄物にたがひて虚浮なりたまはるの周圍なる異邦人の跡をふりて是ハエホバが是のごとくに事をなすべからずと彼らに命じ給ひし者なり 彼等らの神エホバの諸の誠命を遺て已のため二の牛の像を鑄なし又アッラ像を造り天の衆群を拜み且アッラに事へ なたらの子息女に火の中を通らせめおよび禁脔をなしエホバは目け前に惡を爲せんと身を委ねてその聲を惹起せり 是をもてエホバ大にイサエル

二王下十八節  
三王下十九節  
四王下二十節  
五王下二十一節  
六王下二十二節  
七王下二十三節  
八王下二十四節  
九王下二十五節  
十王下二十六節  
十一王下二十七節  
十二王下二十八節  
十三王下二十九節  
十四王下三十節  
十五王下三十一節  
十六王下三十二節  
十七王下三十三節  
十八王下三十四節  
十九王下三十五節  
二十王下三十六節  
二十一王下三十七節  
二十二王下三十八節  
二十三王下三十九節  
二十四王下四十節  
二十五王下四十一節  
二十六王下四十二節  
二十七王下四十三節  
二十八王下四十四節  
二十九王下四十五節  
三十王下四十六節  
三十一王下四十七節  
三十二王下四十八節  
三十三王下四十九節  
三十四王下五十節  
三十五王下五十一節  
三十六王下五十二節  
三十七王下五十三節  
三十八王下五十四節  
三十九王下五十五節  
四十王下五十六節  
四十一王下五十七節  
四十二王下五十八節  
四十三王下五十九節  
四十四王下六十節  
四十五王下六十一節  
四十六王下六十二節  
四十七王下六十三節  
四十八王下六十四節  
四十九王下六十五節  
五十王下六十六節  
五十一王下六十七節  
五十二王下六十八節  
五十三王下六十九節  
五十四王下七十節  
五十五王下七十一節  
五十六王下七十二節  
五十七王下七十三節  
五十八王下七十四節  
五十九王下七十五節  
六十王下七十六節  
六十一王下七十七節  
六十二王下七十八節  
六十三王下七十九節  
六十四王下八十節  
六十五王下八十一節  
六十六王下八十二節  
六十七王下八十三節  
六十八王下八十四節  
六十九王下八十五節  
七十王下八十六節  
七十一王下八十七節  
七十二王下八十八節  
七十三王下八十九節  
七十四王下九十節  
七十五王下九十一節  
七十六王下九十二節  
七十七王下九十三節  
七十八王下九十四節  
七十九王下九十五節  
八十王下九十六節  
八十一王下九十七節  
八十二王下九十八節  
八十三王下九十九節  
八十四王下一百節

ルを怒りこれその前より除きたまはれたればエホバの支派の族かり還れる者なし 然るにエホバの神エホバの誠命を守らずしてイサエルの立たる法度におゆるみたるエホバの苗裔をぞとて多く棄てれを背しめてこれをその執る者の手に付して遂にこれその前より打捨てたまへり すなわちイサエルの子孫エホバをしてエホバにしたがふことを止しめてこれに大なる罪を犯さしめたりしが イサエルの子孫ハヤラベアのなせし諸の罪をあとにひつてこれに離るゝことなかりけれ 遂にエホバの預言者をもて言たまひしごとくイサエルの前より除きたまへり イサエルの王に告て言ふ汝が移てサマリヤの邑々にきたまひしかの國々の民ハこの地の神の道を知ざるが故にもしかばエホバ獅子をかれらの中に送りたまひてその獅子かれら若子を殺せり 是によりてアッスリヤの王に告て言ふ汝が移てサマリヤの邑々にきたまひしかの國々の民ハこの地の神の道を知ざるが故にアッスリヤの王すなわち命を下して言ふ汝等が彼處より更きたりし祭司一人を彼處に携ゆけ即ち彼をして彼處にいたりて住しめよの國の神の道をその人々に教へしめよ 是に於てサマリヤより移れし祭司一人きたりてベタルに住みエホバの敬ふべき事をかれらに教へたり 彼の民はた各自自分自分の神々を造りてふれをかのサマリヤ人が造りたる諸の崇拝に安置せり 民みなその住る邑々において然らぬ

一王下十八節  
二王下十九節  
三王下二十節  
四王下二十一節  
五王下二十二節  
六王下二十三節  
七王下二十四節  
八王下二十五節  
九王下二十六節  
十王下二十七節  
十一王下二十八節  
十二王下二十九節  
十三王下三十節  
十四王下三十一節  
十五王下三十二節  
十六王下三十三節  
十七王下三十四節  
十八王下三十五節  
十九王下三十六節  
二十王下三十七節  
二十一王下三十八節  
二十二王下三十九節  
二十三王下四十節  
二十四王下四十一節  
二十五王下四十二節  
二十六王下四十三節  
二十七王下四十四節  
二十八王下四十五節  
二十九王下四十六節  
三十王下四十七節  
三十一王下四十八節  
三十二王下四十九節  
三十三王下五十節  
三十四王下五十一節  
三十五王下五十二節  
三十六王下五十三節  
三十七王下五十四節  
三十八王下五十五節  
三十九王下五十六節  
四十王下五十七節  
四十一王下五十八節  
四十二王下五十九節  
四十三王下六十節  
四十四王下六十一節  
四十五王下六十二節  
四十六王下六十三節  
四十七王下六十四節  
四十八王下六十五節  
四十九王下六十六節  
五十王下六十七節  
五十一王下六十八節  
五十二王下六十九節  
五十三王下七十節  
五十四王下七十一節  
五十五王下七十二節  
五十六王下七十三節  
五十七王下七十四節  
五十八王下七十五節  
五十九王下七十六節  
六十王下七十七節  
六十一王下七十八節  
六十二王下七十九節  
六十三王下八十節  
六十四王下八十一節  
六十五王下八十二節  
六十六王下八十三節  
六十七王下八十四節  
六十八王下八十五節  
六十九王下八十六節  
七十王下八十七節  
七十一王下八十八節  
七十二王下八十九節  
七十三王下九十節  
七十四王下九十一節  
七十五王下九十二節  
七十六王下九十三節  
七十七王下九十四節  
七十八王下九十五節  
七十九王下九十六節  
八十王下九十七節  
八十一王下九十八節  
八十二王下九十九節  
八十三王下一百節



以てヒゼキヤ王の所にいたらとめたればすなはち上りてエルサレムにきたれり彼等則ち上り來り漂布場  
 の大路に沿ふ池墾の邊にいたりて立ち而して彼等王を呼たればヒルキヤの子なる宮内卿エ  
 リアキム書記官セブナおよびアサフの子なる史官ヨブ出きたりて彼等に語りけるに「ラプシヤクこれに  
 言けるハ汝等ヒゼキヤに言べし大王アサフ王が言たまふ此汝が頼むところの者ハ何や汝  
 争をなすの謀計と勇力とを言も只これ口の先の言語たるのみ誰を恃て我に叛くことをせしや」  
 ハ折かくれる華の杖なるエシラトを頼む其ハ人の其に倚るわれはずなちろの手を刺しぼすなりエシラ  
 トの王パロハ凡てこれを頼む者に斯あるなり汝等あるハ我ハわれらの神エホバを頼むと我に言ん彼  
 ハヒゼキヤの崇邱と祭壇とを除きたる者あらずやまた彼ハエズとエルサレムに告て汝等ハエル  
 サレムに於てこの壇の前に禮拜をなすべしと言しにわらまや然ハ請ふわが主君アサフの王に約を  
 なせ汝もし人を棄てむことを得ハ我馬二千匹を汝にあつらん汝いかにしてか吾主の諸臣の中の最  
 も微き一將たにも退くことを得ん汝なん分エシラトを頼みて兵車と騎兵をこれに仰がんとするや  
 我ぞても今エホバの旨によらずして此處を滅しに上れるならんやエホバ我に此處に攻のぼりてこれを  
 滅せと言たり時にヒルキヤの子エリアキムおよびセブナとヨブアサフにひけるハ請ふスアアの  
 語をもて僕等に語りたまへ我儕これを譏なり石垣の上にを民の聞るどころにてエズヤ語をもて我儕に  
 言談たまふなかれ「ラプシヤクかれらに言ふわが君唯我を汝の主と汝ににつかはして此言をのべたまは  
 せなるんや亦石垣の上に坐する人々に我を遣して彼等をして汝等とも自己の便溺を食ひ且飲に  
 いたらまめんどまたまよにあらまやど而してラプシヤク起わがりエズヤ語をもて大聲に呼はり言をい

十 聖七〇三

十一 聖七二〇

十二 聖九〇七

十三 聖二〇

十四 聖一八〇

十五 聖三十二

だして曰けるよ汝等大王アサフ王の言を聽け王かく言たまふ汝等ヒゼキヤに欺かるゝなかれ彼  
 ハ汝等をわが手より救ひいだすことを乞ふるなりヒゼキヤがエホバがならず我らを救ひたまはん此邑  
 ハアサフの王の手に陥らんとて汝らにエホバを頼むと汝等ヒゼキヤの言を聽な  
 かれアサフの王かく言たまふ汝等約をなして我に降りて各人かれの葡萄の樹の果を食ひ各人  
 かれの無花果樹の果をくらひ各人かれの井水を飲めよ我來りて汝等を一の國に擲ゆかん其汝等  
 の國のごとき國穀と酒のある地と葡萄園のある地油の出る橄欖と蜜とのある地なり汝等ハ生くること  
 を得ん死することあらじヒゼキヤエホバ我儕を救ひたまはんとて汝らを観るどもこれを聽なかれ  
 の神の中孰かこの國をアサフの王の手より救ひたりしや「ハ」アサフの神々の何處か  
 せるセバルク「ハ」アサフの神々の何處にあるやアサフをわが手より救ひ出せし神々あるや國  
 國の神の中にこの國をわが手より救ひいだせし者ありしや然ハエホバがわが手より  
 救ひいだすことを得ん然ども民ハ黙して一言もこれに應へざり其ハ王命じてこれに應ふるなかれ  
 と言きたればなりかくてヒルキヤの子なる宮内卿エリアキム書記官セブナおよびアサフの子なる史官  
 ヨブの衣をばきしてヒゼキヤの許にいたりラプシヤクの言をこれに告たり  
 第十九章  
 ヒゼキヤ王てこれを聞てその衣を裂き麻布を身にまといてエホバの家に入り宮内卿エリ  
 キムと書記官セブナと祭司の中の長老等とに麻布を衣せてこれをアサフの子預言者アサフに遣り  
 等アサフに言けるハヒゼキヤかく言ふ今日ハ難難の日打棄らるゝ日なり嬰孩すべし産門いたり  
 て之を産ひたす力なきなり「ラプシヤク」の主君なるアサフの王に差遣れて來り語る神を誇る汝の

十六 聖二〇五

十七 聖一七〇

十八 聖七〇

十九 聖三〇五

二十 聖二〇

二十一 聖七〇

二十二 聖一〇五

- 一 第六〇六
- 二 第六〇七
- 三 第六〇八
- 四 第六〇九
- 五 第六一〇
- 六 第六一一
- 七 第六一二
- 八 第六一三
- 九 第六一四
- 十 第六一五
- 十一 第六一六
- 十二 第六一七
- 十三 第六一八
- 十四 第六一九
- 十五 第六二〇
- 十六 第六二一
- 十七 第六二二
- 十八 第六二三
- 十九 第六二四
- 二十 第六二五

神エホバあるひい彼の言を聞たぞえん而して汝の神エホバの聞る言語を責罰たまふてもおらん然らば  
 汝この遺る者のために祈禱をたてまつれど エセキヤ王の僕等すなはちイザヤの許にいたりければ  
 ギヤかれらに言けるい汝等の主君にかく言べしエホバかく言たまふアスリヤの王の臣僕等が我を誘る  
 どころの言を汝開て懼るゝなかれ 我かれの氣をうつして風塵を開て己の國にかへるおいたらしめん我  
 また彼をして己の國に放て劍に斃れしむべしと 僭えたラマヤクハ歸りゆきてアスリヤの王グリ  
 プナに戰爭をなしをるどころに至れり其の彼のラキを離れしを聞たればなり 茲にアスリヤの王  
 ハエチアヒアの王ラルカ汝に攻きたると言ふを開てきた使者をエセキヤにつかはして言しむ 汝等ニ  
 欺かるゝなかれ 汝ハアスリヤの王等が廣の國々にたしたるどころの事を知る耶らして汝を滅しつとせ  
 しなり然らば汝いかで救らんや 吾等ハエザン、バラン、レセフおよびテラサル、エマツの人人等を滅ぼ  
 せしがその國々の神これ救ひたりしや 王アハツの王アルバアの王セバルライムの邑およびナセアリ  
 の王等ハ何處にあるや エセキヤ使者の手より書を受てこれを讀みエホバの家にのぼりゆきてエホバの  
 前にこれを展開げ 而してエセキヤ、エホバの前に祈りて言けるハケルベレの間にいますイスマエルの  
 神エホバよ世の國々の中において只汝のみ神にぞすなり汝ハ天地を造りたまひし者にいます エホバよ  
 耳を傾けて聞たまへエホバよ目を開きて見たまへセナクリアが活る神を誘りにあける言語を聞たまへ  
 エホバよ誠ニアスリヤの王等ハ諸の民どころの國々を滅し 又その神々を火になげられたり其等ハ神  
 にくらぶ人の手の作れる者にして木石たればこれを滅せしなり 今われらの神エホバよ願くハ我らをか

- 一 第六二六
- 二 第六二七
- 三 第六二八
- 四 第六二九
- 五 第六三〇
- 六 第六三一
- 七 第六三二
- 八 第六三三
- 九 第六三四
- 十 第六三五
- 十一 第六三六
- 十二 第六三七
- 十三 第六三八
- 十四 第六三九
- 十五 第六四〇
- 十六 第六四一
- 十七 第六四二
- 十八 第六四三
- 十九 第六四四
- 二十 第六四五
- 二十一 第六四六
- 二十二 第六四七
- 二十三 第六四八
- 二十四 第六四九
- 二十五 第六五〇
- 二十六 第六五一
- 二十七 第六五二
- 二十八 第六五三
- 二十九 第六五四
- 三十 第六五五
- 三十一 第六五六
- 三十二 第六五七
- 三十三 第六五八
- 三十四 第六五九
- 三十五 第六六〇
- 三十六 第六六一
- 三十七 第六六二
- 三十八 第六六三
- 三十九 第六六四
- 四十 第六六五
- 四十一 第六六六
- 四十二 第六六七
- 四十三 第六六八
- 四十四 第六六九
- 四十五 第六七〇
- 四十六 第六七一
- 四十七 第六七二
- 四十八 第六七三
- 四十九 第六七四
- 五十 第六七五
- 五十一 第六七六
- 五十二 第六七七
- 五十三 第六七八
- 五十四 第六七九
- 五十五 第六八〇
- 五十六 第六八一
- 五十七 第六八二
- 五十八 第六八三
- 五十九 第六八四
- 六十 第六八五
- 六十一 第六八六
- 六十二 第六八七
- 六十三 第六八八
- 六十四 第六八九
- 六十五 第六九〇

れの手より拯ひいだしたまへ然らば世の國々皆汝エホバのみ神にいますことを知にいらん 茲にアモ  
 の子イザヤ、エセキヤに言つかえしけるハイスマエルの神エホバかく言たまふ汝がセナクリアの事につ  
 きて我に祈るどころの事ハ我これ聴り エホバがかれの事につきて言ふどころの言語ハ是のごとし云  
 く慮女なる女子シオンハ汝を頼じ汝を嘲る女子エリサレムハ汝にむかひて頭を掻る 汝誰を誘りか  
 つ罵言しや汝誰にむかひて聲をあげしや汝ハイスマエルの聖者にむかひて汝の目を高く擧たるなり 汝  
 使者をもて主を誘て言ふ汝影多き兵車をひきゐて出々の巔にのかりレバノの輿にいたり長高き檜樹  
 よ美しき松樹を研たふす汝の境の休息所にいたりうの園の林にいたる 我ハ外國の地をほりて水を飲  
 む我ハ足の跡をもてエジプトの河々をこそくくみ潤すなり 汝開すや昔われ之を作し古時よりわれ  
 之を定めたり今われ之を食らなむ即ち聖き邑々ハ汝のために坵墟となるなり 是をもてうららの中わす  
 む民ハ力弱かり懼れかり懼れかり野の草のごとく青菜のごとく屋蓋のごとく枯る苗のごとし  
 汝の止ると汝の出ると汝の入と汝の我にむかひて怒くる人どハ我の知どころなり 汝の怒くる人事ど  
 汝の傲慢どころの事上りてわが耳にいりたれば我圖を汝の鼻わつけ轡を汝の唇にはごきて汝を元來し  
 道へひきかへすべし 是ハ汝にあたる徴なり即ち一年ハ糧を食ひ第二年にハ又その糧を食ふからん第  
 三年にハ汝ら穢ごどをし又葡萄園をつくりてその果を食ふべし ユダの家の逃れて還れる者  
 ハ復根を下に張り實を上につけん 即ち殘餘者エリサレムより出て逃避たる者シオン山より出きたらん  
 エホバの熱心てこれを爲べし 故にエホバアスリヤの王の事をかく言たまふ彼ハ此邑に入じ亦これに矢  
 を發つとよあらず楯を之にむかひて撃つとよあらず亦豊をきつきてこれを攻るごどわらし 彼ハこの來



ひし國々の人がなすところの憎むべき事に倣へり彼らの父ヒセキヤが毀たる崇邱を改め築き又イスラエルの王アハブのなせしごとくパルのために祭壇を築きアハブの衆衆を拜みてこれに事へまたエホバの家の中間の祭壇を築けり是ハエホバがてれをばして我わが名をエルサレムにおかんと言たまひし家なり彼エホバの家の二の庭に祭壇を築きまたその子に火の中を通らしめ占卜をなし魔術をおこなひ口寄者ども小巫師を取もちエホバの目の前に衆多の惡を爲てその靈怒を惹おこせり彼らの作りしアハブの銅像を駈にたりエホバがこの像につきてダビデの言に言たり

ひしてどわり云く我この家と我がイスラエルの諸の支派の中より選りたるエルサレムに吾名を永久におかん彼等も我が凡てこれに命ぜし事わが僕モ一セがてこれに命ぜし一切の律法を講じて行はば我て我が足をしてわがらの先祖等に與へし地より重りてさまよひ出ることなからしむべし然るに彼等ハ聽くことをせざりきアハブが人々を誘ひて惡をなせしとハエホバがイスラエルの子孫の前に滅したまひし國々の人よりも甚だしかりき是においてエホバの僕なる預言者等をもて語て言給とくユダの王アハブこれら憎むべき事を行ひの前にありしアハブの凡て爲しどころにも除たる惡をなじ亦ユダをしてその偶像をもて罪を犯させられたハエホバの神エホバが言ハ觀よ我エルサレムに流害をくだす是を聞く者ハその耳ふたつながら鳴え我アハブを量りし繩とアハブの家にもちて導繩をエルサレムには送てし人ハ血を拭ひてこれを拭ひて反覆がごとくにエルサレムを搦むららん我わが産業の民の殘餘を棄ててこれをその敵の手に付ざん彼等ハその諸の敵の擄掠にわひ拵奪にわふべし是ハ彼等の先祖等がエホブトより出で日より今日にいたるまで吾目の前に惡をおこなひて我を怒らするが故なり

ロ 王十六節  
 王十七節  
 王十八節  
 王十九節  
 王二十節  
 王二十一節  
 王二十二節  
 王二十三節  
 王二十四節  
 王二十五節  
 王二十六節  
 王二十七節  
 王二十八節  
 王二十九節  
 王三十節  
 王三十一節  
 王三十二節  
 王三十三節  
 王三十四節  
 王三十五節  
 王三十六節  
 王三十七節  
 王三十八節  
 王三十九節  
 王四十節  
 王四十一節  
 王四十二節  
 王四十三節  
 王四十四節  
 王四十五節  
 王四十六節  
 王四十七節  
 王四十八節  
 王四十九節  
 王五十節  
 王五十一節  
 王五十二節  
 王五十三節  
 王五十四節  
 王五十五節  
 王五十六節  
 王五十七節  
 王五十八節  
 王五十九節  
 王六十節  
 王六十一節  
 王六十二節  
 王六十三節  
 王六十四節  
 王六十五節  
 王六十六節  
 王六十七節  
 王六十八節  
 王六十九節  
 王七十節  
 王七十一節  
 王七十二節  
 王七十三節  
 王七十四節  
 王七十五節  
 王七十六節  
 王七十七節  
 王七十八節  
 王七十九節  
 王八十節  
 王八十一節  
 王八十二節  
 王八十三節  
 王八十四節  
 王八十五節  
 王八十六節  
 王八十七節  
 王八十八節  
 王八十九節  
 王九十節  
 王九十一節  
 王九十二節  
 王九十三節  
 王九十四節  
 王九十五節  
 王九十六節  
 王九十七節  
 王九十八節  
 王九十九節  
 王百節

りアハブの目の前に惡をおこなひてユダに罪を犯させたる上にまた無辜者の血を多く流してエルサレムのこの極よりの極にまで盈せりアハブの餘の行爲どうの凡て爲たる事およびこの犯したる罪はユダの王の歴代志の書に記さるゝにあらざるやアハブの先祖等どもに倣りてその家の園すなはちウザの園に葬られし子アハブに代りて王となれり○アハブの王となれる時二十二歳にしてエルサレムにおいて二年世を治めたる母ハヨラバのハルツの女にしてその名をメコレメタと云ふアハブの父アハセのなせしごとくエホバの目の前に惡をなせりすなはち彼は凡てその父のおゆみし道におゆみその父の事へし偶像に事へてこれを拜みその先祖等の神エホバを棄てエホバの道におゆまざりき茲にアハブの臣僕等黨をむすびて王をその家に弑したりしが國の民のウザに敵して黨をむすびし者をことごとく撃つるせり而して國の民アハブの子アハブを王となしてこれに代らしむアハブのなしたるの餘の行爲ハユダの王の歴代志の書に記さるゝにあらざるやアハブの園にてその墓に葬られし子アハブに代りて王となれり

第二十章 ヨシヤハ八歳にして王となりエホバの目に適ふ事をなす所の父アハブの道におゆみて右にも左にも轉らざりきヨシヤの十八年に王ヨシヤの子アハブの子アハブの書記ヨシヤをエホバの家に遣せり爾ちこれに言けらく汝祭司の長ヒルキヤの請にのばり行てエホバの家にいりし銀すなはち門守が良よりあつめし者を彼に計算しめ工事を司するエホバの家の監督者の手にてこれを付さめり而してまた彼らをしてエホバの家にありて工事をなすところの若にてこれを付さしめ殿の破壊を修

王十四節  
 王十五節  
 王十六節  
 王十七節  
 王十八節  
 王十九節  
 王二十節  
 王二十一節  
 王二十二節  
 王二十三節  
 王二十四節  
 王二十五節  
 王二十六節  
 王二十七節  
 王二十八節  
 王二十九節  
 王三十節  
 王三十一節  
 王三十二節  
 王三十三節  
 王三十四節  
 王三十五節  
 王三十六節  
 王三十七節  
 王三十八節  
 王三十九節  
 王四十節  
 王四十一節  
 王四十二節  
 王四十三節  
 王四十四節  
 王四十五節  
 王四十六節  
 王四十七節  
 王四十八節  
 王四十九節  
 王五十節  
 王五十一節  
 王五十二節  
 王五十三節  
 王五十四節  
 王五十五節  
 王五十六節  
 王五十七節  
 王五十八節  
 王五十九節  
 王六十節  
 王六十一節  
 王六十二節  
 王六十三節  
 王六十四節  
 王六十五節  
 王六十六節  
 王六十七節  
 王六十八節  
 王六十九節  
 王七十節  
 王七十一節  
 王七十二節  
 王七十三節  
 王七十四節  
 王七十五節  
 王七十六節  
 王七十七節  
 王七十八節  
 王七十九節  
 王八十節  
 王八十一節  
 王八十二節  
 王八十三節  
 王八十四節  
 王八十五節  
 王八十六節  
 王八十七節  
 王八十八節  
 王八十九節  
 王九十節  
 王九十一節  
 王九十二節  
 王九十三節  
 王九十四節  
 王九十五節  
 王九十六節  
 王九十七節  
 王九十八節  
 王九十九節  
 王百節